

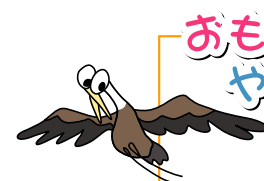


平成20年度は5つの取り組みを進めます！

6月24日に開催された総会において、平成20年度事業計画が承認されました。

平成20年度は、平成19年度から継続した取り組みを中心に行い、ツルの飛来に関するデータや越冬環境づくりのための作業ノウハウなどを蓄積していきます。

また、引き続き「セブニーレブンみどりの基金」や農林水産省の「農村自然再生活動高度化事業」、国土交通省の「四万十川自然再生事業」とも協働しながら取り組みを実施します。



おもしろそう！
やってみたい！
大歓迎です！

活動スタッフ大募集

事務局では、取り組みに参加・協力いただける方を随時募集しています。ツルの飛来状況調査、草刈り、会報編集など、どんな取り組みでも構いません。お気軽に事務局までお問い合わせ下さい。

■四万十川の里づくりの会 事務局（担当：佐伯・小笠原）
tel. 0880-34-4333（中村商工会議所内）



ツルの飛来状況などの調査 （11月～平成21年2月）

四万十の鳥の専門家 澤田佳長氏（野生生物環境研究センター 所長）や鳥類愛好家、地元の方々の協力を得て、ツルの飛来状況や行動などを記録します。



平成19年度は、飛行中のツルなど、めずらしい写真も撮影できました。引き続き映像記録の蓄積を図っていきますので、ツルを見た際は、事務局までご一報下さい！



ねぐら・えさ場づくり （7月～10月）

江ノ村地区では、引き続き休耕田の借り上げ契約を行い、越冬地となる場所を拡げていきます。7月2日の草刈りの様子



中山地区および江ノ村地区の借り上げ地では、適切な時期に各種作業を行い、良好なねぐら・えさ場環境へと整備します。

作業スケジュール

6月末～8月
えさ場づくり（草刈り・草焼き・整地・モミ撒き）

9～10月
ねぐらづくり（草刈り・草焼き・整地・水張り）

10月
デコイ（ツルを呼び寄せるための等身大模型）の設置



昨年度江ノ村地区に置いたデコイ。痛んだ部分を修復し、10月に設置する予定です



農法・栽培ごよみの作成に向けた検討

取り組みの啓発に役立てるため、ツルのえさとなる二番穂※を確保するための栽培ごよみの検討、冬期湛水農法の実践方法や先進事例の情報収集などを行います。

※二番穂とは、稲刈りをした後の株から茎が伸びて稲穂をつけた状態のことで、ツルたちはこれをえさにします。しかし、近年では稲刈り後、すぐに稲株を耕うん機で耕すため二番穂が出ず、ツルのえさが減っています。



ツルの自然体験学習会（7月および秋ごろ） ワークショップ（平成21年1月末）の開催

地元の小中学生を対象とした自然体験学習会や地元住民を対象としたワークショップを開催し、ツルなどの野鳥の保護や農村環境の保全について啓発を図ります。



会報の発行 ホームページの運営

当会の取り組みをより多くの人々に知っていただくため、会報やホームページで随時活動経過を紹介していきます。また、今年度は会報を会員全員に発送し、会員間の情報交換のツールとして役立てていきます。



ホームページ
<http://www.shimanto-tsuru.com/>
アクセス数：2,000
※平成20年8月6日現在

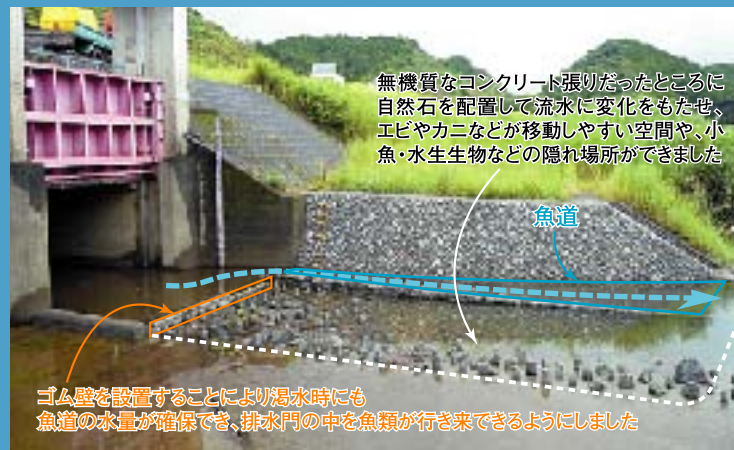
協働
連携

ツルの里づくり 越冬環境を着々整備

四万十川自然再生事業（ツルの里づくり）～平成19年度経過報告～

国土交通省中村河川国道事務所では、平成18年度より河川工事の面から「ツルの里づくり」をサポートしていますが、平成19年度までに、四万十川の支川中筋川流域の中山地区でのねぐら・えさ場整備のほか、5カ所の排水門（清水（楠島地区）、国見、有岡、西谷、九樹）の段差を解消し、自然の連続性（水を介した生き物の移動経路）を復元させる工事を行い、無事完了しました。

これからも多くの生き物が生息し、ツルが越冬できる環境づくりに努めていきます。



無機質なコンクリート張りだったところに自然石を配置して流水に変化をもたせ、エビやカニなどが移動しやすい空間や、小魚・水生生物などの隠れ場所ができました

ゴム壁を設置することにより過水時にも魚道の水量が確保でき、排水門の中を魚類が行き来できるようになりました

九樹箇所

Point 生き物の移動経路を創る
排水門の段差解消工事

排水門の水の流出部と河川との段差を解消し、さまざまな生き物が生息・移動できるようになりました。

さっそくですが…

「ツルの自然体験学習会」を開催しました

7月17日、中山地区において「ツルの自然体験学習会」を開催しました（国土交通省の協力により開催）。当日は雨模様。断続的な雨に見舞われながらも、子どもたちは元気に参加してくれました。

参加したのは、四万十市立中筋小学校、東中筋小学校、東中筋中学校の児童・生徒42名と当会会員など大人約30名。子どもたちはまず、国土交通省の四万十川自然再生事業「ツルの里づくり」について学習しました。中山地区ではメダカやミズスマシなどが確認されたことなど、ツルの越冬地にふさわしい湿地環境になっていることが説明されました。続いて、モミ撒きです。JA高知はたの職員から、モミがばらけるように広く撒くよう指導を受け、一斉に田の中へ。雨にも負けず、モミ約30kgを撒きました。

モミは順調に生育すれば10月下旬頃までに実り、ツルのえさとなることが期待されます。



説明を聞く子どもたち



モミ撒きの様子。田の中へ入るのは初めてという子どもも多く、みんな大騒ぎ